

2023 年度（令和 5 年度）

# 事業報告書

令和 6 年 5 月 24 日

学校法人 玉手山学園

## I. はじめに

### 学園の教学姿勢(めざすもの)をあらためて強く意識

#### 教学理念「夢と志 (Dreams & Wills)」 (2023.11 制定)

第4期(2023~2027)学園中長期計画 1 年目(令和5年度(2023年度))

#### 玉手山学園の目的 実践 の制定(2023.11) 仕事への具現化を意識

経営理念と学園ブランドが別々に存在し“分かりにくい”との声があり 一つに融合させ一人ひとりの教職員の仕事に取り組む姿勢がバラバラにならず ベクトルが一つに結集するよう「玉手山学園の目的 実践」の理解 共有 響感 仕事への具現化に努めました

#### 教学理念「夢と志 (Dreams & Wills)」 教学姿勢の意識高揚

この学園(大学 短大 高校 幼稚園)にきたら 夢中になることが見付き 元気やる気が出るワクワクする“仕掛け”がある 建学の精神「感恩」とともに 教学理念「夢と志」 教学姿勢で“勝負する”ことの意識高揚に努めました

#### 各校園が 選ばれる理由(夢と志がベース)と その“仕掛け”をチェック

数多くある学校園の中から自校園が 選ばれる理由とその“仕掛け”が何であるのかを見つめ直し まだまだ不十分であり改善充実を図る必要性を強く認識しました また自分たちは大競争時代を 元気に生き残り得る 実直良質な教育活動を実施している組織であるという自覚を新たにしました

#### 各校園が 現実的な在籍者数(2027年度)目標を 悩みながら設定

学園ビジョン 5,000 人は堅持し 厳しい現実を直視し 各校園が悩みながら相当の決意・覚悟をもって在籍者数目標を再設定しました

#### For the students の教学姿勢

本学園教学姿勢の一つ それは“**For the students**” 教職員の尽力に謝意を表し 学園総力結集の“令和5年度(2023年度)教育事業”を報告いたします



令和6年(2024年)5月24日

理事長・学園長 江端源治

# 旧 経営理念

学内版(学外非公表) 令和4年11月25日 理事会承認

学校法人玉手山学園 経営理念

**建学の精神 「感恩」**  
人は、さまざまな恩恵のもとで 生かされている。この真理に自覚め、感謝感謝から生まれる、豊かな心と情熱をもって人の幸せを願い、行動するとき、私たちは成長し、社会に貢献できる。～「ありがとう」に出会い、気づき、感謝の行動から、新しい「ありがとう」が生まれる～

**使命**  
建学の精神「感恩」を実現する人を育成し、豊かな未来社会をつくる

**綱領**

1. 学生 生徒 園児のもてる力を活かし、その教育実践により、職員も豊かになる
2. 教育人として、自己の能力 人格の向上に努め、その使命を誠実に遂行し、未来を拓く(「知・志」)を継承 創造する
3. 各校園は、教育理念のもと、具体的な教育目標を掲げ、職員は、常に改革(できる)の意識とスピード感をもって、創意工夫 試行を重ね、その達成に総力を結集する
4. 職員育成(強(HEM))に努め、健全な財政基盤を確立し、学園の継続 発展を創り出す

**ビジョン**

経営理念「学園ブランド」の実践 For the students

1. 夢と志(Dreams and Wills)を育てる 豊かな心を 形に行動し、～ありがとう 笑顔 あいさつ 優しさを大切に～
2. 教育力の向上 学修成果(できるようになる)・修学成就
3. 教育体制の充実
  - ・組織安定(学園在籍数5,000人)
  - ・4校園体制堅持(大学 短期大学 高等学校 認定こども園)
  - ・健全収支(事業活動収支差額比率10.0%)
  - ・教育環境(施設・設備等)の充実・愛用(安全安心 快適)
4. 地域共生 社会に愛され 成長する学園
5. 学園総合力の向上(学園ファミリー意識) 各校園(職員 学生 生徒 園児)の相互協力 尊重

# 旧 学園ブランド

玉手山学園が めざす 学園ブランド(価値・評価)

ありがとう を大切にする  
建学の精神「感恩」  
「夢と志」(Dreams & Wills) を育てる  
その豊かな心を 形にし 行動する  
できる方法を考える  
やってみる チャレンジする  
元気 やる気で 夢中になる  
笑い あいさつし 優しく接する

**思 感 夢と志**

「学園ブランド」は経営理念の主旨・発信版  
(こんな学園をめざす こんな教育をして こんな人を育てる)

2022年11月25日  
玉手山学園  
理事長・学園長 江端源治

めざす学園ブランドが すべての教職員に浸透、すべての教育活動に具現化(表面化)  
学園(すべての教職員一人一人)が仕掛けて  
本質に 学生・生徒・園児、保護者が 実感し続ける  
そうして、学園ブランド価値・評価が醸成されていく



# 一つに融合

## 玉手山学園の目的 実践

(令和5年11月24日 理事会承認)

<全文版>

<「玉手山学園の目的 実践」のイメージツリー>

玉手山学園の目的 実践 <全文版>

令和5年11月24日 理事会承認

**建学の精神 感恩** **教学理念 夢と志(Dreams & Wills)**

**思 感 夢と志**

人は、さまざまな恩恵のもとで、生かされている。この真理に自覚め、感謝感謝から生まれる、豊かな心と情熱をもって人の幸せを願い、行動するとき、私たちは成長し、豊かな未来社会をつくる。～「ありがとう」に出会い、気づき、感謝の行動から、新しい「ありがとう」が生まれる～

**教学姿勢**  
こんな教育で学び育つ

ありがとうを大切に笑顔であいさつし優しく接する

建学の精神「感恩」にもとづき人の幸せを願い行動

夢と志を形にし行動する

教職員の特長を活かし学生・生徒・園児が夢中になる「仕掛けプログラム」を創り出す

できる方法を考えやってみる

常に改革(できる)の意識とスピード感をもって創意工夫 試行を重ね、その達成に総力を結集

**For the students と 経営的視点**

学生・生徒・園児のために有限の予算で最大限の教育成果

**教育人として誇り 責任 誠実**

教育人として自己の能力、人格の向上に努め、その使命を誠実に遂行

**ビジョン**

1. **思 感 夢と志の具現化**  
・ 学園ブランドの具現化  
・ 夢と志の多様性尊重 (大学から無条件でそれら)
2. **教育力の向上**  
・ 学修成果 (できるようになる)  
・ 修学成就 (奨学金受給)
3. **教育体制の充実**  
・ 組織安定 (学園在籍数約400人)  
・ 4 校園体制堅持 (大学・短期大学・高等学校・認定こども園)  
・ 健全収支  
・ 施設 設備等の充実 愛用
4. **地域共生**  
・ 社会に愛され 成長する学園
5. **学園総合力の向上** (学園ファミリー意識)  
・ 各校園(職員 学生 生徒 園児)の相互協力 尊重

玉手山学園の目的 実践 イラスト版

玉手山学園は、「夢中になること」が第一の学習 達成の目的を掲げ、人々の成長を促しています。

**色形 大きさ 方向は多様**

**夢と志の結実**

Story 3  
この夢と志が豊かさを生み出しています(国別)  
海外留学 国際資格  
ものづくり 起業  
海外進学 インターンシップ  
就職 スポーツ 芸術 研究

Story 2  
夢と志が実現し豊かさが育ちます  
夢と志が実現し豊かさが育ちます  
夢と志が実現し豊かさが育ちます  
夢と志が実現し豊かさが育ちます

**人の成長**  
肥沃な土壌があってこそ豊かに育ち実る

**教学姿勢**  
という栄養素

「夢と志」が育つ基礎と「仕掛け」

ありがとうを大切に 笑顔で あいさつ 優しく 接する

できる方法を 考え やってみる

夢と志を 形にし 行動する

For the students 経営的視点

教育人として 誇り 責任 誠実

Story 1  
建学の精神「感恩」といって、この真理に自覚め、感謝感謝から生まれる、豊かな心と情熱をもって人の幸せを願い、行動するとき、私たちは成長し、豊かな未来社会をつくる。～「ありがとう」に出会い、気づき、感謝の行動から、新しい「ありがとう」が生まれる～

**思 感** という土壌

建学の精神 感恩



人は さまざまな恩恵のもとで 生かされている  
この真理に目覚め 感動 感謝から生まれる 豊かな心と情熱をもって  
人の幸せを願い 行動するとき 私たちは成長し 豊かな未来社会をつくる

～「ありがとう」に出会い 気づき 感動 感謝の行動から  
新しい「ありがとう」が生まれる～

教学理念 夢と志 (Dreams & Wills)



夢と志を育てる (We raise up dreams & wills)

教学姿勢

こんな教育で 学び 育つ

ありがとうを大切に 笑顔であいさつし 優しく接する

建学の精神「感恩」にもとづき 人の幸せを願い行動

夢と志を形にし 行動する

教職員の持ち味を活かし 学生・生徒・園児が夢中になる“仕掛け(プログラム)”を創り試す

できる方法を考え やってみる

常に改革(できる)の意識とスピード感をもって 創意工夫 試行を重ね その達成に総力結集


For the students と 経営的視点

学生・生徒・園児のために 有限の予算で最大限の教育成果


教育人として 誇り 責任 誠実

教育人として自己の能力・人格の向上に努め その使命を誠実に遂行


ビジョン

1   
感恩 夢と志  
の具現化


- ・ 教学姿勢の実践
- ・ 夢と志の多様性尊重  
(大きさ 色 形 方向はそれぞれ)

2   
教育力の向上


- ・ 学修成果  
(できるようになる)
- ・ 修学成就  
(笑顔での卒業)

3   
教育体制の充実

- ・ 組織安定  
(学園在籍者数5,000人)
- ・ 4 校園体制堅持
- ・ 健全収支
- ・ 施設 設備等の充実 愛用

4   
地域共生

- ・ 社会に愛され  
成長する学園

5   
学園総合力の向上  
(学園ファミリー意識)

- ・ 各校園の相互協力 尊重  
(職員 学生 生徒 園児)

## Ⅱ. 法人の概要

### 1. 沿革

年月日			沿革
昭和 17 年	1942	3 月	財団法人山田学園認可 玉手山高等女学校 設置認可
昭和 22 年	1947	4 月	玉手山中学校 設置 玉手山女子専門学校 設置
昭和 23 年	1948	4 月	学制改革により玉手山高等学校と改称
昭和 25 年	1950	3 月	玉手山女子専門学校 廃止
昭和 26 年	1951	3 月	学校法人玉手山学園に組織変更
昭和 40 年	1965	3 月	玉手山中学校 廃止
昭和 40 年	1965	4 月	玉手山女子短期大学 家政科・保育科 設置 玉手山女子短期大学附属幼稚園 設置
昭和 41 年	1966	10 月	玉手山女子短期大学を関西女子短期大学に改称 玉手山女子短期大学附属幼稚園を関西女子短期大学附属幼稚園に改称
昭和 42 年	1967	4 月	関西女子短期大学 保健科 設置
昭和 45 年	1970	4 月	関西女子短期大学附属歯科技工士学院 設置 (昭和 56 年関西女子医療技術専門学校へ移行)
昭和 49 年	1974	3 月	関西女子短期大学 家政科 廃止
昭和 49 年	1974	4 月	玉手山高等学校を関西女子短期大学附属高等学校に改称
昭和 56 年	1981	4 月	関西女子短期大学附属歯科技工士学院を改組の上、関西女子医療技術専門学校医療秘書学科設置
平成 4 年	1992	4 月	関西女子医療技術専門学校 ビジネス秘書学科 設置
平成 7 年	1995	3 月	関西女子医療技術専門学校 歯科技工士学科 廃止
平成 7 年	1995	4 月	関西女子医療技術専門学校 理学療法学科 設置
平成 8 年	1996	4 月	関西女子医療技術専門学校 作業療法学科・介護福祉学科 設置 関西女子医療技術専門学校 医療秘書学科とビジネス秘書学科を統合し、医療ビジネス学科に改称
平成 9 年	1997	4 月	関西福祉科学大学 社会福祉学部社会福祉学科 設置
平成 10 年	1998	4 月	関西女子短期大学附属高等学校を関西福祉科学大学高等学校に改称 関西女子医療技術専門学校を関西医療技術専門学校に改称し、男女共学実施
平成 11 年	1999	4 月	関西福祉科学大学高等学校 特別進学コースのみ男女共学実施
平成 13 年	2001	4 月	関西福祉科学大学大学院 社会福祉学研究科臨床福祉学専攻 設置 関西女子短期大学 福祉栄養学科 設置 関西医療技術専門学校 介護福祉専攻科 設置
平成 15 年	2003	4 月	関西福祉科学大学 社会福祉学部臨床心理学科 設置 健康福祉学部健康科学科・福祉栄養学科 設置 関西福祉科学大学大学院 社会福祉学研究科臨床福祉学専攻（博士後期課程） 設置 社会福祉学研究科心理臨床学専攻 設置
平成 16 年	2004	3 月	関西女子短期大学 福祉栄養学科 廃止
平成 17 年	2005	4 月	関西女子短期大学 歯科衛生学科（3 年制） 設置
平成 18 年	2006	4 月	関西医療技術専門学校 医療ビジネス学科を診療情報管理学科・診療情報管理専攻科に改組 関西福祉科学大学高等学校 3 コース制導入 (特別進学Ⅰ、特別進学Ⅱ、総合進学)

年月日			沿革
平成 21 年	2009	3 月	関西医療技術専門学校 介護福祉専攻科 廃止
平成 22 年	2010	4 月	関西福祉科学大学 特別支援教育専攻科 設置
平成 23 年	2011	3 月	関西医療技術専門学校 診療情報管理専攻科 廃止
平成 23 年	2011	4 月	関西福祉科学大学 保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻・作業療法学専攻 設置 関西女子短期大学 医療秘書学科・医療秘書学専攻科 設置
平成 24 年	2012	3 月	関西医療技術専門学校 介護福祉学科・診療情報管理学科 廃止
平成 25 年	2013	3 月	関西医療技術専門学校 廃止
平成 25 年	2013	4 月	関西福祉科学大学高等学校 3 コース制を 4 コース制に改編 (特別進学Ⅰ、特別進学Ⅱ、進学、保育進学)
平成 25 年	2013	8 月	関西福祉科学大学附属総合リハビリテーション診療所 設置 (9 月診療開始)
平成 26 年	2014	4 月	関西女子短期大学 保育科を保育学科に、保健科を養護保健学科に名称変更
平成 27 年	2015	4 月	関西福祉科学大学 保健医療学部リハビリテーション学科言語聴覚学専攻設置
平成 28 年	2016	4 月	関西福祉科学大学 心理科学部心理科学科 設置 教育学部教育学科子ども教育専攻・発達支援教育専攻 設置
平成 29 年	2017	3 月	関西福祉科学大学 特別支援教育専攻科 廃止
平成 30 年	2018	4 月	関西女子短期大学附属幼稚園 認定こども園関西女子短期大学附属幼稚園に認定
平成 31 年	2019	4 月	認定こども園関西女子短期大学附属幼稚園 0～2 歳児受入
令和元年	2019	8 月	関西福祉科学大学附属総合リハビリテーション診療所を関西福祉科学大学附属整形外科リハビリ診療所に名称変更
令和 4 年	2022	3 月	関西福祉科学大学 教育学部教育学科子ども教育専攻 廃止
令和 4 年	2022	4 月	関西福祉科学大学 教育学部教育学科発達支援教育専攻を子ども発達教育専攻に名称変更
令和 5 年	2023	4 月	関西女子短期大学 専攻科 口腔保健学専攻 設置

## 2. 設置する学校

学校名	学部・学科・専攻等	開設年度	
関西福祉科学大学	社会福祉学研究科	臨床福祉学専攻 (博士前期課程)	平成 13 年
		臨床福祉学専攻 (博士後期課程)	平成 15 年
		心理臨床学専攻 (修士課程)	平成 15 年
	社会福祉学部	社会福祉学科	平成 9 年
	心理科学部	心理科学科	平成 28 年
	健康福祉学部	健康科学科	平成 15 年
		福祉栄養学科	平成 15 年
	保健医療学部	リハビリテーション学科	平成 23 年
		理学療法学専攻	
		作業療法学専攻	
		言語聴覚学専攻	
教育学部	教育学科	平成 28 年	
	子ども教育専攻 <sup>※1</sup>		
	発達支援教育専攻 <sup>※2</sup>		
関西女子短期大学	保育学科	昭和 40 年	
	養護保健学科	昭和 42 年	
	歯科衛生学科	平成 17 年	
	医療秘書学科	平成 23 年	
	専攻科 口腔保健学専攻 <sup>※3</sup>	令和 5 年	
関西福祉科学大学高等学校	全日制課程普通科	昭和 17 年	
認定こども園 関西女子短期大学附属幼稚園		昭和 40 年	

※1 関西福祉科学大学教育学部教育学科子ども教育専攻は令和 4 年 4 月より廃止

※2 関西福祉科学大学教育学部教育学科発達支援教育専攻は令和 4 年 4 月より子ども発達教育専攻に名称変更

※3 専攻科 口腔保健学専攻は令和 5 年 4 月より開設

### 3. 学生・生徒・園児数

< 関西福祉科学大学 >

(単位：名)

研究科・学部・学科・専攻等	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員	R5年度在籍者数(現員)					R4年度 卒業生数	
				R5.5.1				計		
				1年生	2年生	3年生	4年生			
社会福祉学 研究科	臨床福祉学専攻(博士前期課程)	20	0	40	4	5	/	/	9	5
	臨床福祉学専攻(博士後期課程)	3	0	9	1	0	1	/	2	2
	心理臨床学専攻(修士課程)	10	0	20	5	2	/	/	7	10
大学院 計		33	0	69	10	7	1	/	18	17
社会福祉学部	社会福祉学科	140	20	600	122	103	135	147	507	142
	計	140	20	600	122	103	135	147	507	142
心理科学部	心理科学科	110	10	460	76	85	103	126	390	90
	計	110	10	460	76	85	103	126	390	90
健康福祉学部	健康科学科	80	10	340	60	58	73	88	279	69
	福祉栄養学科	80	5	330	64	53	54	56	227	55
	計	160	15	670	124	111	127	144	506	124
保健医療学部	リハビリテーション学科	170	0	680	172	160	142	146	620	143
	理学療法学専攻	80	0	320	86	93	79	75	333	64
	作業療法学専攻	50	0	200	43	37	44	36	160	47
	言語聴覚学専攻	40	0	160	43	30	19	35	127	32
	計	170	0	680	172	160	142	146	620	143
教育学部	教育学科	100	0	400	52	66	60	80	258	73
	子ども教育専攻 <sup>※1</sup>	/	0	100	/	/	15	28	43	28
	発達支援教育専攻 <sup>※2</sup>	/	0	100	/	/	45	52	97	45
	子ども発達教育専攻 <sup>※2</sup>	100	0	200	52	66	—	—	118	—
	計	100	0	400	52	66	60	80	258	73
大学 計		680	45	2,810	546	525	567	643	2,281	572

(「令和5年度学校基本調査(令和5年5月1日現在)」より)

※1 教育学科子ども教育専攻は令和4年4月より廃止

※2 教育学科発達支援教育専攻は令和4年4月より子ども発達教育専攻に名称変更し、入学定員変更 50名→100名

< 関西女子短期大学 >

(単位：名)

学科・専攻科	入学定員	収容定員	R5年度在籍者数(現員)				R4年度 卒業生数	
			R5.5.1			計		
			1年生	2年生	3年生			
保育学科	120	240	57	54	/	111	77	
養護保健学科	40	80	17	11	/	28	20	
歯科衛生学科	100	300	81	110	75	266	86	
医療秘書学科	40	80	29	22	/	51	20	
短大 計		300	700	184	197	75	456	203
専攻科 口腔保健学専攻 <sup>※1</sup>	5	5	3	/	/	3	—	

(「令和5年度学校基本調査(令和5年5月1日現在)」より)

※1 専攻科 口腔保健学専攻を令和5年4月に開設

< 関西福祉科学大学高等学校 >

(単位：名)

学校名	入学定員	収容定員	R5 年度在籍者数(現員)				R4 年度卒業生数
			R5.5.1				
			1 年生	2 年生	3 年生	計	
関西福祉科学大学高等学校	270	810	400	322	285	1,007	356

※入学定員は公募入学定員を表記 (R3 年度 270 名、R4 年度 270 名、R5 年度 270 名)  
 学則上の入学定員は 470 名

< 認定こども園 関西女子短期大学附属幼稚園 >

(単位：名)

学校名	入学定員	利用定員	R5 年度在園児数(現員)								R4 年度卒園児数
			R5.5.1								
			0 歳児	1 歳児	2 歳児	満 3 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	計	
認定こども園 関西女子短期大学附属幼稚園	—	360	3	12	19	2	67	75	89	267	114

#### 4. 役員・教職員の概要

##### (1) 役員

###### ① 人数

(単位：名)

	定員数	現員
理事	8～10	10
監事	2～3	2

(令和 5 年 5 月 1 日現在)

###### ② 責任限定契約、補償契約、役員賠償責任保険契約の状況 (令和 5 年 5 月 1 日現在)

令和 2(2020)年 4 月 1 日より私立学校法が一部改正施行され、役員(理事及び監事)の責任が明確化され下記 2 点が明記されました。

[1] 役員は、その任務を怠ったときは、学校法人に対し、これによって生じた損害を賠償する責任を負うものとする。 (第44条の2)

[2] 役員は、その職務を行うについて悪意又は重大な過失があったときは、これによって第三者に生じた損害を賠償する責任を負うものとする。 (第44条の3)

また、役員責任の明確化により、役員職務執行に過度な萎縮を防ぐ観点から、「責任限定契約」、「補償契約」、「役員賠償責任保険契約」についても併せて整備されました。

本学園では、「責任限定契約」について寄附行為に規定し、理事会の議決により締結いたしました。

また理事会において「補償契約」及び「役員賠償責任保険契約」の締結についても議決され、「役員賠償責任保険契約」については、「私大協役員賠償責任保険」に加入いたしました。

以下その契約状況につきお示いたします。

##### ア 責任限定契約

私立学校法及び寄附行為に従い理事会の議決により、令和 2 年 4 月 1 日から責任限定契約を締結していません。

###### ① 対象役員の氏名

非業務執行理事(森本吉是、間石成人、塚本修志)、監事(藤井克彦、嶋野修司)

###### ② 契約内容の概要

非業務執行理事及び監事がその職務を行うに当たり善意でかつ重大な過失がないときは、最低責任限度額を上限に法人があらかじめ定めた額と法律の規定に基づき算出された最低責任限度額とのいずれか高い額を賠償責任の限度額とする。

###### ③ 契約によって職務執行の適正性が損なわれないようにするための措置

契約の内容に、役員がその職務を行うに当たり善意でかつ重大な過失がないときに限る旨の定めがあり、その判断は理事会の議決による。



## イ 補償契約

私立学校法に従い理事会の議決により、令和3年5月28日から補償契約を締結しています。

### ①対象役員の氏名

理事：江端源治、江端豊和、奥田孝司、玉井宏昌、竹重文雄、津田耕一、森本吉是、  
間石成人、仲野徹、塚本修志

監事：藤井克彦、嶋野修司

### ②契約内容の概要

(1)役員が、その職務の執行に関し、法令の規定に違反したことが疑われ、又は責任の追及に係る請求を受けたことに対処するために支出する費用の全額

(2)役員が、その職務の執行に関し、第三者に生じた損害を賠償する責任を負う場合における損失、但し、次に掲げる費用等を補償することができない。

- ・上記(1)に掲げる費用のうち通常要する費用の額を超える部分
- ・役員がその職務を行うにつき悪意又は重大な過失があったことによりその責任を負う場合には、損失の全部

### ③契約によって職務執行の適正性が損なわれないようにするための措置

契約の内容に、役員がその職務を行うにつき悪意又は重大な過失があったことによりその責任を負う場合には、補償しない旨の定めがある。

### ④実行された補償の内容

該当なし。

## ウ 役員賠償責任保険契約

私立学校法に従い理事会の議決により、令和2年4月1日から「私大協役員賠償責任保険」に加入しています。

### ①団体契約者

日本私立大学協会

### ②被保険者

記名法人

学校法人 玉手山学園

個人被保険者（理事・監事）

理事：江端源治、江端豊和、奥田孝司、玉井宏昌、竹重文雄、津田耕一、森本吉是、  
間石成人、仲野徹、塚本修志

監事：藤井克彦、嶋野修司

### ③保険期間 令和5(2023)年4月1日午後4時～令和6(2024)年4月1日午後4時

### ④補償内容

- ・役員（個人被保険者）に関する補償  
法律上の損害賠償金、争訟費用、役員費用（各種対応費用）等
- ・補償契約に関する補償
- ・記名法人に関する補償  
法人内調査費用、第三者委員会設置・活動費用
- ・その他の補償  
緊急費用、法人外役員向け上乗せ補償、役員の相続人向け上乗せ補償

### ⑤職務執行の適正性が損なわれないようにするための措置

支払い対象とならない主な場合が保険契約に明示されている。

- ・被保険者が私的な利益または便宜の供与を違法に得たことに起因する対象事由
- ・被保険者の犯罪行為に起因する対象事由
- ・法令に違反することを被保険者が認識しながら行った行為に起因する対象事由
- ・保険契約の保険期間の初日において、被保険者が対象事由が発生するおそれのある状況を知っていた場合に、その状況の原因となる行為に起因する一連の対象事由
- ・セクハラ、パワハラ等の行為を行った個人被保険者本人に対してなされた雇用関連損害賠償請求に起因する損害

### ⑥保険期間中総支払限度額

20億円

## (2) 評議員

人数

(単位：名)

	定員数	現員
評議員	21～25	24人

(令和5年5月1日現在)

## (3) 教職員

(単位：名)

学校名	教員		職員	
	本務(専任)	兼務	本務(専任)	兼務
関西福祉科学大学	130	99	50	29
関西女子短期大学	37	77	15	24
関西福祉科学大学高等学校	58	28	6	11
認定こども園 関西女子短期大学附属幼稚園	27	10	1	0
法人	0	0	2	1
法人本部	0	0	19	12
関西福祉科学大学附属整形外科リハビリ診療所	0	0	6	8
合計	252	214	99	85

※兼務職員数は学生アルバイトを除いた人数にて示す

(令和5年5月1日現在)

## 〔専任教員内訳〕

## ＜関西福祉科学大学＞

(単位：名)

学部・学科		大学設置基準上必要な専任教員数		教授		准教授		講師		助教		助手		計	
		専任教員	うち教授	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
社会福祉学部	社会福祉学科	14	7	4	9	3	5	1	0	3	1	0	0	11	15
心理科学部	心理科学科	10	5	6	3	2	2	2	0	0	0	0	0	10	5
健康福祉学部	健康科学科	14	7	6	6	0	1	0	2	0	0	0	0	6	9
	福祉栄養学科	10	5	6	5	1	0	2	1	0	1	0	0	9	7
保健医療学部	リハビリテーション学科	17	9	6	4	5	5	7	2	6	1	0	0	24	12
教育学部	教育学科	10	5	8	4	2	2	5	1	0	0	0	0	15	7
大学全体の収容定員に応じ定める専任教員数		28	14	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
合計		103	52	36	31	13	15	17	6	9	3	0	0	75	55

※専任教員数には、学長兼務者（1名）を含む

(令和5年5月1日現在)

## ＜関西女子短期大学＞

(単位：名)

学科	短大設置基準上必要な専任教員数		教授		准教授		講師		助教		助手		計		
	専任教員	うち教授	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
保育学科	10	3	1	3	1	4	0	2	0	0	0	0	2	9	
養護保健学科	4	2	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	3	3	
歯科衛生学科	6	2	3	4	0	2	0	2	0	0	0	3	3	11	
医療秘書学科	4	2	1	1	0	1	1	1	0	1	0	0	2	4	
短期大学全体の入学定員に応じ定める専任教員数		5	2	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
合計		29	11	8	8	1	10	1	5	0	1	0	3	10	27

※専任教員数には、学長兼務者（1名）を含む

(令和5年5月1日現在)

<関西福祉科学大学高等学校>

<認定こども園 関西女子短期大学附属幼稚園> (単位：名)

学校名	専任教員数		計
	男	女	
関西福祉科学大学高等学校	43	15	58
認定こども園 関西女子短期大学附属幼稚園	2	25	27

(令和5年5月1日現在)

### Ⅲ. 事業の概要（主な事業内容および進捗状況）

#### 関西福祉科学大学

##### 1. 建学の精神「感恩」の周知と実践

- ・ 学生に対しては、ゼミやオリエンテーション等を通じて、教員より周知した。
- ・ 教員に対しては、教授会や学科会議等で周知した。
- ・ 職員に対しては、事務局管理者会議及び事務局朝礼で周知した。

##### 2. 就職支援の充実

- ・ 各学科においては、AA 面談等を通じて進路実現に向けた丁寧な個別サポートを行った。必要に応じて、教員採用試験対策・就活支援担当による個別面談も実施した。
- ・ 学生支援センターにおいては、学科の特性を踏まえた就職ガイダンスや3,4年生向けの就活サポートプログラムを実施した。
- ・ 模擬面接や模擬授業の対策について、Web でも実施し強化を図った。

##### 3. 国家試験、各種資格試験等の合格支援

- ・ 各学科においては国家試験等の対策として、講座（動画配信含む）や模擬試験、個別指導を実施し、学修の進行状況や成績に応じた助言・指導を行った。
- ・ 学生支援センターにおいては、各種資格試験対策として、ガイダンス、対策講座、模擬試験、個別面談、説明会等を実施した。

##### 4. 退学、休学者減少対策

- ・ 欠席が多い学生に対し、AA 面談の実施及び保護者への通知を行うとともに、学科会議で当該学生についての情報共有を行った。面談で明らかになった問題については、関連部署と連携し問題解決に努めた。
- ・ 1年生を対象とした、学修や困りごとについてのアンケート及び各種イベントや初年次プログラムを実施し、大学生活に早く慣れるための環境を整備した。

##### 5. 入学定員の充足

###### A. 学生募集推進施策の充実

- ・ 学科教員による高校訪問、高校での模擬授業の実施及び分野別説明会等への参加や、地方の高校へのオンライン説明会などを通じて、積極的に高校との関係性を築いた。

###### B. オープンキャンパスの質向上（対面型・Web型）

- ・ 高校1・2年生対象のイベントや入試体験講座を新たに実施した。
- ・ 顔スタッフの増員及び対応力向上を目的とし、職員と学生スタッフリーダーを中心とした研修会を実施した。
- ・ 体験型プログラムの実施により満足度の向上を図った。
- ・ 在学生と高校生の交流を増やし、学科の魅力を伝えるとともに相談しやすい環境を整えた。

###### C. Web 広報の質向上

- ・ SNS 広告を強化し、本学を知ってもらうための投稿を中心に運用した。
- ・ 一部学科ではターゲティング広告を活用し、学科の認知機会を得ることができた。

###### D. 制作物（動画コンテンツ含む）・媒体広報の質向上

- ・ 各学科においては、HP や SNS の更新頻度を高め、学科の魅力発信を強化した。
- ・ 高校生に魅力を伝えるための、学科紹介用「パワポ動画」を制作し、本学の認知度拡大を目指した。また、「パワーワード（選ばれる理由）」等を設定した学科ページを制作した。

## 1. 建学の精神「感恩」の周知と実践

- ・学生に対しては、ゼミやオリエンテーション等を通じて、教員より周知した。
- ・教員に対しては、教授会や学科会議等で周知した。
- ・職員に対しては、事務局管理者会議及び事務局朝礼で周知した。

## 2. 就職支援の充実

- ・各学科においては、学生支援センターとの連携を強化し、学生支援センターによる就職ガイダンスや履歴書添削指導、面接練習等を積極的に活用できるようにした。また、ゼミ担当教員による就職指導も実施した。
- ・学生支援センターにおいては、就職ガイダンスの実施、学生のニーズに即した求人情報の収集や提供を行った。また、大学と合同で教員採用試験対策講座や公務員試験対策講座を開催した。

## 3. 国家試験、各種資格試験等の合格支援

- ・各学科においては、ゼミでの個別指導を通じて合格支援を行った。
- ・歯科衛生学科においては、各科目の総復習にあたる科目を最終学年の秋学期に設定し、更に国家試験直前に対策講義等を実施した。
- ・学生支援センターにおいては、各学科との連携のもと、各種講座の企画運営を行った。

## 4. 休学者・退学者数減少の対策強化

- ・各学科においては、ゼミ担当教員による個別指導を実施し、困りごとや変化に対応した。また、欠席防止対策として、欠席する際は必ず授業担当教員へ電話連絡するよう徹底した。
- ・保育学科においては、「学科オリエンテーション」を復活させ、入学当初の不安の払拭に努めた。
- ・学生支援センターにおいては、経済的理由による退学抑制の対策として、各種奨学金の獲得と採用拡大を目指した。また、メンタルサポートを行い、学科との情報共有を図った。

## 5. 入学定員の充足

### A. 学生募集推進施策の充実

- ・WEB 広告の強化に加え、オープンキャンパスへの参加促進を強化した。
- ・中国・四国、九州・沖縄を募集活動強化地域として、地方向けのリーフレット作成や高校訪問、会場ガイダンスへの参加を強化した。

### B. オープンキャンパスの質向上（対面型・Web 型）

- ・各学科イベントの体験時間や学生スタッフとの交流時間を十分に確保した。
- ・顔スタッフの増員及び対応力向上を目的とし、職員と学生スタッフリーダーを中心とした研修会を実施した。

### C. Web 広報の質向上

- ・SNS 広告を強化し、本学を知ってもらうための投稿を中心に運用した。
- ・各学科においては、HP や SNS の更新頻度を上げ、授業の様子、学生生活や各種行事など、学科の特徴が伝わる内容を発信した。

### D. 制作物（動画コンテンツ含む）・媒体広報の質向上

- ・有名クリエイターによる本学独自のコンセプトビジュアルを制作した。
- ・高校生に魅力を伝えるための、学科紹介用「パワーポ動画」を制作し、本学の認知度拡大を目指した。また、「パワーワード（選ばれる理由）」等を設定した学科ページを制作した。

1. 「夢と志」を育み、生徒の「やる気と元気」を引き出す。次の5項目を実践

- ①授業を大切に      ②時間を守る      ③笑顔で挨拶  
④「ありがとう」の心を大切に      ⑤課外活動を活発に

- ・総合的な探究の時間では、体験型・分野別を重視した活動や企業とのコラボによる探究活動を実施し、「人間力」の向上へ導いた。
- ・全学年そろっての体育祭・文化祭（3年振り）を実施し、特に文化祭では模擬店を行いコロナ以前の活気のある行事内容へと推進した。

2. 生徒一人ひとりを大切にしっかりと関わる

- ・個人面談を早い段階から実施。生徒たちとの対話を通して興味関心・学習目標・課題についての内容の把握に努め、個別最適な成長の促進を行った。
- ・学年やコースごとの集会を行い、高校生活上の問題点や進路等の最新情報の共有など、生徒一人ひとりの関りに努めた。

3. 主体的学習習慣の確立と進路希望実現

- ・外部模試の結果とAIを利用し、個々に応じた学習面での弱点強化のための「動画・課題配信」を行った。また、コースの特性に応じた学習支援アプリ「Monoxer」の採用など主体的学習習慣の確立に努めた。
- ・令和5年度卒業生283名の内、4年制大学進学者数は183名、全体の64.7%と前年度より6.0ポイントアップした。また、短期大学へは52名が進学した。内部進学者数は83名（併設大学43名、短期大学40名）、内部進学率29.3%であった。また就職希望者に対して、個々の希望に応じた進路先の情報を提供し、希望する職種に就くことができた。

4. 教育のデジタル化への普及対応と授業実践

- ・ICT機器を活用した授業展開を促進しつつ、理解度を深めるための資料、小テストや様々なアンケートをiPadで行うことにより、ペーパーレス化を推進、学校全体のSDGs活動にも貢献した。
- ・「わかる授業」への追求のため、教員研修を行い、体育も含め各科目でのタブレット実践報告と授業に活用できる「ソフト・アプリ」の共有を行った。

5. 本校の特長を伸ばし、全学協働した説明会・広報活動を強化推進する

- ・今年度より中学3年生を対象としたクラブ体験入学プログラムを実施し、本校の活発な課外活動の一部を具体的に体験することが可能となった。
- ・体験入学では、高等学校の授業体験だけでなく、併設のリハビリテーション学科（大学）、歯科衛生学科（短大）、保育学科（短大）の説明を行うなど、卒業後の進路展開も含めた説明会を実施した。
- ・今年度より希望者に対し、「高・短」連携として、歯科衛生学科の実習を兼ねた「歯科疾患予防プログラム」の結果を踏まえ、3年間の高校生活期間を利用した口腔ケア（お口の健康プログラム）の活動を開始した。
- ・文化祭では併設大学・短期大学の展示・説明ブースを設置。生徒だけでなく保護者も含めた個別体験型の説明会を展開した。

1. 保育実践力、教員として望ましい資質、[質の高い保育]を実践する能力の向上
  - ・園全体で、こども主体の保育や豊かに過ごせる環境を大切にし、こどもがやってみたいことや保育者が経験させたいことなどを各学年や教員間で会議を持ち、実践するように努めた。
  - ・保育内容を動画や写真に記録し、次の保育につなげた。また、保護者には参加型保育の実施やホームページで子どもの様子を知らせて、常に見える保育を心がけた。
  - ・子ども一人ひとりに寄り添える保育を実践できるように、教員間で何度も話し合いを持ち、共有した。
  
2. 魅力ある子育て支援体制の具現化
  - ・子ども一人ひとりの気持ちに寄り添いながら、自由に開放的に表現できるように保育内容を組み立てた。
  - ・教職員同士、子どもの育ちに必要な情報や様子を共有し、年齢に合わせた保育内容を組み立て、活動に参加できるように準備や環境設定を考えた。
  
3. めばえプロジェクトを基盤とした生活環境、施設設備の充実と整備、楽しく活気あるこども園の構築
  - ・保護者に「お山プロジェクト」の活動に参加してもらい、お山や園庭の整備、環境づくりを進めた。保護者が直接参加することで子どもの活動の実体を知ってもらうことができた。また、教員・保護者間でも関係作りができ、環境整備についての助言を得られるようになった。自然を利用した整備など工夫をし、子どもの遊びも広げることができた。
  - ・自然の中で伸び伸びと遊ぶだけでなく、子どもの五感を刺激できるような活動を考え取り入れ、保育の充実を図った。
  
4. より良質の教育・保育を提供するために預かり保育・延長保育及び土曜保育の充実、並びに業務の見直しを図る
  - ・0歳児から5歳児までの一貫教育を行うための環境整備と保育計画の実践、預かり保育・異年齢児保育の内容を充実させた。
  - ・1号認定児の子育て支援として、保護者のニーズをくみ取り、預かり保育を利用しやすくなったことで、利用者が増加した。教育時間終了後は、教員だけでなく本学園のアルバイト学生を増やし対応した。
  
5. 魅力的な広報活動の実施と園児の確保
  - ・ホームページやLINE公式アカウントなどで、園の新しい活動を発信し続けた。
  - ・保育中の子どものありのままの姿をHPで動画配信することで、子どもの生き生きとした活動など魅力ある保育を伝えることができた。

## 1. 健全収支の実質化による、安定した財政基盤の確立

- ・「第4期(2023~2027)学園中長期計画・中長期財務計画」に基づき、学園の財政基盤の安定化を図るべく、学生・生徒・園児の確保に注力し、教育の質及び学生等へのサービス向上のため、計画的な投資をハード・ソフト両面にわたり引き続き積極的に行いながら、人件費や経費の支出制御に努めている。当年度は、学生・生徒・園児の減少や施設設備に係る大規模な修繕・更新を行ったことなどの影響により、資金収支において翌年度繰越支払資金が前年度より660百万円減少し、事業活動収支においても基本金組入前当年度収支差額が△622百万円となった。
- ・財務管理運営体制については、財務の健全性を担保すべく、監事及び公認会計士と連携を密にし、適正な会計処理を行った。

## 2. 就労環境の整備並びに職員のさらなる能力開発の推進

- ・「安全衛生管理規程」を改正し、面接指導制度の基準や流れを明確にし、さらなる職員の健康保持増進に努めた。
- ・事務職員管理職を対象に、「評価者研修」を実施した。研修において、評価の仕組み、評価する際の留意点を再確認した。また事例をもとに演習を実施したことにより、人事評価のあり方や方法を習得することができた。
- ・私学経営研究会（SKK）セミナー、私学経営者協議会セミナーを中心に学外の研修を職員に案内し積極的な参加を推進した。また学内の研修では安全運転講習会・安全衛生研修会を実施した。

## 3. 学園ガバナンス体制の整備

- ・私立学校法改正（R7.4.1 施行）の概要や留意点、本学への影響について、役員・評議員と協議し、情報共有した。
- ・私立学校法改正後の新しい体制について、令和6年3月22日開催の評議員会で評議員の意見を聴き、同日開催の理事会において決議した。
- ・公的研究費と周辺会計（短大同窓会）の内部監査を実施し、改善すべき点を提案した。
- ・内部監査のあり方は、今後とも検討していく。

## 4. 計画的な大規模修繕の履行

- ・「第4期(2023~2027)学園中長期計画・中長期財務計画」において、2023,2024年度を大規模修繕実施年度としている。
- ・1年目の本年度については、空調の老朽更新（学園本館、大学本館、大学2号館、大学6号館、短大5号館、高校1号館、幼稚園、記念講堂）、照明のLED化（学園本館、大学本館、大学2号館、大学6号館、短大3号館、幼稚園、記念講堂舞台）等の修繕工事を集中的に計画通り行った。

## 5. 地域連携センターの積極的活動展開

- ・柏原市の小学生を対象とした、夏休み「学習サポート」事業を令和5年8月7日～8月9日の3日間「立教館」にて実施した。のべ約150名の小学生が参加し、本学園の在学学生が児童たちとコミュニケーションをとりながら、夏休みの宿題等の学習サポートを行った。
- ・本学園・柏原市共催による「令和5年度避難所運営演習」（令和元年度より毎年度実施）を令和5年10月27日、学園総合体育館“Do 夢”にて開催した。  
当日は、学園の学生・生徒・教職員、柏原市職員、玉手中学校教員・生徒など計300名の参加があり、「地震発生！その時何が起こる？」をテーマとした講演、及び演習実技として「段ボールベッド及び簡易テント設営」・「避難所〇×クイズ」・「AEDの取扱いについて」を3グループに分かれローテーションを行い実施した。  
本学園は災害時の「指定避難所」であり、今回の演習を通して災害時の支援者としての心構えを養い、避難所運営について共に考える貴重な機会となった。



## IV. 財務の概要（令和5年度決算の概要）

### 1. 資金収支計算書

（単位：百万円）

収入の部			
科目	令和4年度	令和5年度（予算）	令和5年度（実績）
学生生徒等納付金収入	4,157	4,006	3,953
手数料収入	46	47	43
寄付金収入	29	0	3
補助金収入	1,447	1,429	1,371
資産売却収入	0	0	0
付随事業・収益事業収入	81	77	78
受取利息・配当金収入	15	14	17
雑収入	141	43	111
前受金収入	596	684	485
その他の収入	102	144	148
資金収入調整勘定	△735	△622	△699
前年度繰越支払資金	4,405	4,402	4,402
収入の部合計	10,285	10,224	9,913
支出の部			
科目	令和4年度	令和5年度（予算）	令和5年度（実績）
人件費支出	3,392	3,353	3,353
教育研究経費支出	1,617	1,720	1,566
管理経費支出	566	591	576
施設関係支出	86	460	349
設備関係支出	84	82	56
資産運用支出	220	280	220
その他の支出	235	319	354
予備費	-	15	-
資金支出調整勘定	△317	△48	△303
翌年度繰越支払資金	4,402	3,453	3,742
支出の部合計	10,285	10,224	9,913

#### (1) 収入の部

学生生徒等納付金収入については、学生・生徒・園児数の減少の影響により、予算比 53 百万円減少、前年度比 204 百万円減少の 3,953 百万円となりました。

手数料収入は、入学検定料収入が減少したため、予算比 4 百万円減少、前年度比 3 百万円減少の 43 百万円となりました。

寄付金収入は、前年度に学園創立 80 周年記念に係る寄付があったため、予算比で 3 百万円増加したものの、前年度比 26 百万円減少の 3 百万円となりました。

補助金収入は、前年度に比べて地方公共団体補助金収入及び施設型給付費収入が増加したものの、国庫補助金収入が減少したため、予算比 58 百万円減少、前年度比 76 百万円減少の 1,371 百万円となりました。

付随事業・収益事業収入は、主として補助活動収入であり、予算比 1 百万円増加、前年度比 3 百万円減少の 78 百万円となりました。

受取利息・配当金収入は、予算比 3 百万円増加、前年度比 2 百万円増加の 17 百万円となりました。

雑収入は、想定以上の退職者の発生により、私立大学退職金財団及び大阪府私学総連合会からの交付金収入が多額となって予算比で 68 百万円増加となったものの、前年度比は 30 百万円減少の 111 百万円となりました。

前受金収入は、学生・生徒・園児数や修学支援金適用者数の増減などの影響により、予算比 199 百万円減少、前年度比 111 百万円減少の 485 百万円となりました。

その他の収入は、主として前期末未収入金収入であり、予算比 4 百万円増加、前年度比 46 百万円増加の 148 百万円となりました。

その結果、収入の部合計は、予算比 311 百万円減少、前年度比 372 百万円減少の 9,913 百万円となりました。

(2) 支出の部

人件費支出は、予備費使用・科目間流用後の予算とほぼ同額となりました。一方、主として退職金支出の減少により前年度比で 39 百万円減少し、3,353 百万円となりました。

教育研究経費支出は、消耗品費支出、光熱水費支出等を中心として全体的に想定よりも少額となり、予算比 154 百万円減少、前年度比 51 百万円減少の 1,566 百万円となりました。

管理経費支出は、水光熱費支出等が想定よりも少額となり、予算比で 15 百万円減少しました。一方、前年度比は修繕費等が増加したため 10 百万円増加し、576 百万円となりました。

施設関係支出は、建物支出及び構築物支出が想定よりも少額となり、予算比で 111 百万円の減少となりました。一方、当年度は複数の校舎の空調設備等を修繕・更新して多額の支出があったことから、前年度比は 263 百万円増加し、349 百万円となりました。

設備関係支出は、主として教育研究用機器備品支出が想定よりも少額となり、予算比 26 百万円の減少となりました。また、前年度に学生寮リノベーションに伴う備品購入による多額の支出があったため、前年度比も 28 百万円減少し、56 百万円となりました。

資産運用支出は、退職給与引当特定資産繰入支出 47 百万円、減価償却引当特定資産繰入支出 143 百万円、収益事業元入金支出 30 百万円の合計額であり、予算比は 60 百万円減少、前年度比はほぼ同額の 220 百万円となりました。

(3) 翌年度繰越支払資金

上記の結果、翌年度繰越支払資金は予算比 289 百万円増加、前年度比 660 百万円減少の 3,742 百万円となりました。

## 2. 事業活動収支計算書

(単位：百万円)

科目	令和4年度	令和5年度(予算)	令和5年度(実績)
学生生徒等納付金	4,157	4,006	3,953
手数料	46	47	43
寄付金	29	0	4
経常費等補助金	1,445	1,428	1,371
付随事業収入	81	77	78
雑収入	137	43	102
教育活動収入計	5,895	5,601	5,550
人件費	3,484	3,434	3,391
教育研究経費	2,224	2,343	2,176
管理経費	613	638	624
徴収不能額等	1	1	1
教育活動支出計	6,323	6,416	6,192
教育活動収支差額	△427	△814	△642
受取利息・配当金	15	14	17
教育活動外収入計	15	14	17
教育活動外支出計	0	0	0
教育活動外収支差額	15	14	17
経常収支差額	△412	△800	△625
資産売却差額	0	0	0
その他の特別収入	20	1	16
特別収入計	21	1	17
資産処分差額	77	10	10
その他の特別支出	1	4	4
特別支出計	78	14	14
特別収支差額	△57	△13	3
〔予備費〕	-	5	-
基本金組入前当年度収支差額	△470	△818	△622
基本金組入額合計	△19	△542	△82
当年度収支差額	△488	△1,360	△704
前年度繰越収支差額	△3,931	△4,317	△4,317
基本金取崩額	102	0	38
翌年度繰越収支差額	△4,317	△5,678	△4,983
(参考)			
事業活動収入	5,931	5,616	5,584
事業活動支出	6,400	6,434	6,206

### (1) 教育活動収支

教育活動収入は、雑収入が想定より上振れたものの、学生生徒等納付金の減少の影響により、予算比 51 百万円減少、前年度比 345 百万円減少の 5,550 百万円となりました。

教育活動支出は、人件費、教育研究経費を中心に想定よりも減少したため、予算比で 224 百万円減少、前年度比でも 131 百万円減少し、6,192 百万円となりました。

その結果、教育活動収支差額は予算比 172 百万円増加、前年度比 215 百万円減少の△642 百万円となりました。

### (2) 教育活動外収支

教育活動外収入は、受取利息・配当金のみであり、予算比 3 百万円増加、前年度比 2 百万円増加の 17 百万円となりました。

教育活動外支出は、借入金等利息等を指しますが、予算、前年度及び当年度の実績はありません。

その結果、教育活動外収支差額は予算比 3 百万円増加、前年度比 2 百万円増加の 17 百万円となり、経常収支差額は、予算比 175 百万円増加、前年度比 213 百万円減少の△625 百万円となりました。

(3) 特別収支

特別収入は、現物寄付及び過年度修正額の計上等により、予算比は 16 百万円増加したものの、前年度比は 4 百万円減少の 17 百万円となりました。

特別支出は、予算比でほぼ同額だったものの、前年度に多額の図書除却差額があったため、前年度比は 64 百万円減少の 14 百万円となりました。

その結果、特別収支差額は、予算比 16 百万円増加、前年度比 60 百万円増加の 3 百万円となりました。

(4) 当年度収支差額等

基本金組入前当年度収支差額は、予算比で 196 百万円増加したものの、前年度に比べて教育活動収入が減少した影響が大きく、前年度比 152 百万円減少の△622 百万円となりました。

基本金組入額合計は、予算比 460 百万円の減少、前年度比 63 百万円増加の△82 百万円となりました。

その結果、当年度収支差額は予算比 656 百万円増加、前年度比 216 百万円減少の△704 百万円となりました。また、基本金取崩額 38 百万円があり、翌年度繰越収支差額は予算比 695 百万円増加、前年度比 666 百万円減少の△4,983 百万円となりました。

◆◆◆主要財務比率の経年比較表◆◆◆

	算式	令和 4 年度	令和 5 年度	前年度比	(ご参考) 全国平均※ (令和 4 年度)
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	59.0%	60.9%	1.9%	50.9%
人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{納付金}}$	83.8%	85.8%	2.0%	69.3%
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	37.6%	39.1%	1.5%	36.1%
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	10.4%	11.2%	0.8%	8.5%
事業活動収支差額 比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	△7.9%	△11.1%	△3.2%	4.6%
基本金組入後収支 比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入}-\text{基本金組入額}}$	108.3%	112.8%	4.5%	104.7%
学生・生徒等 納付金比率	$\frac{\text{納付金}}{\text{経常収入}}$	70.3%	71.0%	0.7%	73.5%
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	24.4%	24.6%	0.2%	14.4%
減価償却額比率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{経常支出}}$	10.4%	10.7%	0.3%	11.5%

※大学法人（医療系法人を除く）全国平均「令和 5 年度版 今日の私学財政」より

（注）「経常収入」＝教育活動収入計＋教育活動外収入計

「経常支出」＝教育活動支出計＋教育活動外支出計

### 3. 貸借対照表

(単位：百万円)

資産の部		
科 目	令和4年度	令和5年度
固定資産	18,985	18,945
有形固定資産	14,041	13,781
特定資産	4,256	4,446
その他の固定資産	688	717
流動資産	4,566	3,861
資産の部合計	23,551	22,806
負債の部		
科 目	令和4年度	令和5年度
固定負債	822	860
流動負債	1,270	1,109
負債の部合計	2,092	1,969
純資産の部		
科 目	令和4年度	令和5年度
基本金	25,776	25,819
繰越収支差額	△4,317	△4,983
純資産の部合計	21,458	20,837
負債及び純資産の部合計	23,551	22,806

#### (1) 資産の部

有形固定資産は、建物の減価償却の影響が大きく、前年度末比 260 百万円減少の 13,781 百万円となりました。

特定資産は、退職給与引当特定資産が 47 百万円、減価償却引当特定資産が 143 百万円増加したことにより、前年度末比 190 百万円増加の 4,446 百万円となりました。

その他の固定資産は、主として収益事業元入金が増加したことにより、前年度末比 29 百万円増加の 717 百万円となり、固定資産合計は前年度末比 40 百万円減少の 18,945 百万円となりました。

流動資産は、現金預金の減少が大きく、前年度末比 705 百万円減少の 3,861 百万円となりました。

その結果、資産の部合計は前年度末比 745 百万円減少の 22,806 百万円となりました。

#### (2) 負債の部

退職給与引当金が増加したものの、主として前受金が増加したため、負債の部合計は前年度末比 123 百万円減少の総額 1,969 百万円となりました。

#### (3) 純資産の部

基本金は、第1号基本金が 43 百万円減少したため、前年度末比 43 百万円減少の 25,819 百万円となりました。

繰越収支差額（翌年度繰越収支差額）は、2.事業活動収支計算書（4）当年度収支差額等で述べたように、前年度末比 666 百万円減少の△4,983 百万円となりました。

その結果、純資産の部合計は前年度末比 621 百万円減少の 20,837 百万円となりました。

#### 4. 今後の課題

当年度は、施設設備に係る大規模な修繕・更新を行った影響が大きく、資金収支において翌年度繰越支払資金が前年度より 660 百万円減少し、事業活動収支においても基本金組入前当年度収支差額が△622 百万円となりましたが、今後につきましても、令和 5 年度から令和 9 年度までを対象とした「第 4 期(2023~2027)学園中長期計画・中長期財務計画」に基づき、学園の財政基盤の安定化を図るべく、今後も学生・生徒・園児の確保に注力し、教育の質及び学生へのサービス向上のため、計画的な投資をハード・ソフト両面にわたり引き続き積極的に行いながら、人件費や経費の支出制御に努めます。

財務管理運営体制については、財務の健全性を担保すべく、監事及び公認会計士と連携を密にし、適正な会計処理を継続します。

※資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表、及び文中の金額は、百万円未満を四捨五入しているため、表記中の金額において端数のずれが生じている場合があります。

※令和 5 年度（予算）には、補正後及び科目間流用後の予算を記載しています。

以上

## 【資料編】

### 関西福祉科学大学

#### 1. 令和5年度進路状況

(単位：名)

学部・学科・専攻			卒業者	就職希望者	就職決定者	就職決定率	進学希望者	進学決定者	進学率
社会福祉学部	社会福祉学科		128	122	122	100%	3	3	100%
心理科学部	心理科学科		99	80	77	96.3%	8	7	87.5%
健康福祉学部	健康科学科		82	80	79	98.8%	1	1	100%
	福祉栄養学科		54	54	54	100%	0	0	—
保健医療学部	リハビリテーション学科	理学療法学専攻	71	67	66	98.5%	0	0	—
		作業療法学専攻	33	27	27	100%	1	1	100%
		言語聴覚学専攻	31	25	24	96.0%	1	1	100%
教育学部	教育学科	子ども教育専攻	28	26	26	100%	2	2	100%
		発達支援教育専攻	44	43	43	100%	0	0	—
全 体			570	524	518	98.9%	16	15	93.8%

(令和6年5月1日現在)

#### 2. 令和5年度資格取得状況

(単位：名)

学部・学科・専攻			資格	取得者数
社会福祉学部	社会福祉学科		社会福祉士	59
			精神保健福祉士	3
			介護福祉士	10
			高等学校教諭一種免許状「福祉」	0
心理科学部	心理科学科		精神保健福祉士	2
健康福祉学部	健康科学科		養護教諭一種免許状	74
			高等学校教諭一種免許状「保健」	6
			中学校教諭一種免許状「保健」	5
			第一種衛生管理者（単位取得者）	80
	福祉栄養学科		管理栄養士	29
			栄養士	51
			フードスペシャリスト	28
			栄養教諭一種免許状	3
保健医療学部	リハビリテーション学科	理学療法学専攻	理学療法士	68
		作業療法学専攻	作業療法士	28
		言語聴覚学専攻	言語聴覚士	23
教育学部	教育学科	子ども教育専攻	幼稚園教諭一種免許状	24
			保育士	23
		発達支援教育専攻	小学校教諭一種免許状	43
			特別支援学校教諭一種免許状	21

※現役での取得者数  
(令和6年5月1日現在)

関西女子短期大学

1. 令和5年度進路状況

(単位：名)

学科	卒業者	就職希望者	就職決定者	就職決定率	進学希望者	進学決定者	進学率
保育学科	52	49	48	98.0%	1	1	100%
養護保健学科	11	10	10	100%	0	0	—
歯科衛生学科	73	66	64	97.0%	2	2	100%
医療秘書学科	22	21	21	100%	1	0	0
全体	158	146	143	97.9%	4	3	75.0%
専攻科 口腔保健学専攻	3	3	3	100%	0	0	—

(令和6年5月1日現在)

2. 令和5年度資格取得状況

(単位：名)

学科	資格	取得者数
保育学科	保育士	49
	幼稚園教諭二種免許状	51
養護保健学科	養護教諭二種免許状	8
	中学校教諭二種免許状「保健」	0
歯科衛生学科	歯科衛生士	68
医療秘書学科	秘書士	17

※現役での取得者数  
(令和6年5月1日現在)

関西福祉科学大学高等学校

1. 令和5年度進路状況

(単位：名)

コース	卒業者	進学希望者	進学決定者	進学率	就職希望者	就職決定者	就職決定率
特別進学Ⅰコース	11	11	11	100%	0	0	—
特別進学Ⅱコース	82	82	82	100%	0	0	—
進学コース	167	159	157	98.7%	8	5	62.5%
保育進学コース	23	21	21	100%	2	2	100%
全体	283	273	271	99.3%	10	7	70.0%

(令和6年5月1日現在)

以上